令和 5 年度 国本中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤に、やさしい心とたくましい気力・体力をもち、社会の発展に貢献できる人間を育成する。

(2) 具体目標（具体的な生徒像など）

- ① 健康で意志の強い生徒（健康教育の推進）
- ② 自ら学び創造力のある生徒（自己教育力の育成）
- ③ 心情豊かで思いやりのある生徒（心の教育の推進）
- ④ 勤労を愛し実践力のある生徒（文化や伝統の継承と勤労精神の涵養）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人権尊重の精神を基盤として、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力など、変化の激しい社会を生きるために必要となる「生きる力」を確実に身に付けさせる指導に力を入れ、『生徒・職員が共に成長できる学校』を目指す。そのために、人間力の形成に向けて、全教育活動を通じて、「ほめて伸ばす指導（自己存在感・自己肯定感・自己有用感など自尊感情を育む指導）」の充実を図り、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成していく。

また、こうした教育活動がより効果的に実践されるよう、学校における働き方改革を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 「生徒が明るく、いきいきと活動する学校」づくりに努める。
- (2) 生徒理解に基づいた生徒指導の充実を努め、基本的な生活習慣と規範意識の育成を図る。
- (3) 学習において、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒を認め生かす授業の工夫に努める。
「とちぎっ子学力アッププロジェクト」「道徳教育の充実」「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に努める。
（「宇都宮モデル」の活用）
- (4) 教職員が課題を共有し、協働して教育活動に当たれる職場づくりに努める。
- (5) 学校、家庭、地域の連携を深め特色ある学校づくりを推進する。
- (6) 教職員一人一人の特性を生かした校務分掌を工夫することで、働き甲斐を大切にしながら、業務の効率化と働き改革を進める。

【国本地域学校園教育ビジョン】

「自ら学び心豊かで元気な国本っ子」～地域とともにある学校をめざして～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、改正教育基本法、学校教育法及び新中学校学習指導要領の関係法令、及び県教育行政基本方針、市教育委員会管理運営規則、市学校教育スタンダードの示すところに従い、本校教育課程を編成する。
- (2) 学校経営方針のもと、教育課程のスリム化、重点化を図りつつ、教育目標の実現を図るために編成する。
- (3) 地域や学校の実態を考慮し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた育成を通して「生きる力」の醸成を目指して、「特色ある学校づくり」の基盤となるように編成する。
- (4) 全教職員の参画と教師同士の連携・協力によって編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

◇教育目標の達成を目指すチーム学校づくり

- ・生徒や家庭、地域、関係機関等と学校教育目標や学校経営の理念を共有し、その達成に向かう集団づくりの推進に努める。
- ・情報発信を積極的に行い、地域とのかかわりを深める工夫をすることで、地域の中核として愛される、開かれた学校づくりの推進に努める。

(2) 学習指導

◇宇都宮モデルに基づく授業改善を通し、学びに向かう力の育成と学力の向上を目指す

- ・学力向上プログラムを実施することで、基礎・基本の確実な定着を目指し、家庭学習の充実を図る。
- ・各種学習調査結果の分析をもとに、宇都宮モデルに基づく授業改善の推進を行う。
- ・E S D の理念を生かした学習活動を推進する。

(3) 生徒指導

◇生徒一人一人の主体性を高める指導の充実を図る

- ・自分の力でやり遂げる体験や場の充実を図る。
- ・生徒との適切な関わりにより信頼関係を構築し、状況に応じた声かけをすることで、活動の意欲を高め、粘り強く取り組ませる。
- ・生徒のよさを認め、ほめて伸ばす指導を強化することで、生徒が自分のよさに気づき、自信を持たせる。
- ・困難を克服し、不安から立ち上がる力（レジリエンス）を育成するため、ソーシャルスキルの習得に係る取組みを教育課程に位置づける。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

◇自ら健康・体力の向上に努め、心身ともに健康でたくましい生徒の育成を図る

- ・基礎体力の定着と個々の発達段階に応じた体力向上を図る。
- ・生徒の自主的な学習活動・啓発活動による食を含めた生活習慣の確立を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学力向上プログラムを実施</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善（宇都宮モデルに基づく授業改善の推進）</p> <p>③朝の学習の実施で基礎・基本の定着を目指す</p> <p>④家庭学習の充実（クロームブックの活用）</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答は、教職員81.3%、生徒91.5%、保護者84.5%と、いずれも数値指標を達成している。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の方針（3）を受け、宇都宮モデルに基づく授業改善の推進を継続するとともに、具体的な取組内容については次年度に向け精査し、より効果的な取組を共通実践していけるよう、教職員で共通理解・共通実践を徹底していく。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答80%以上</p>	<p>①道徳教育、人権教育の充実（学年ごとの教材研究の実施）</p> <p>②学校行事や各種体験活動における望ましい人間関係の構築</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答は、教職員87.5%、生徒93.5%、保護者 91.6%でいずれも数値指標を達成している。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育・人権教育を要に、学校行事や各種体験活動を継続して実施する。その際、ふさわしい言葉使いやマナー、思いやりを持った行動を学校全体で促していく。
	<p>A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①生徒会を中心とした規範意識向上のための取組の充実</p> <p>②道徳の授業の充実</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答は、教職員 81.3%、生徒85.0%で、どちらも昨年と比較してほぼ横ばいであるが数値指標を達成している。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に生徒がきまりについて関心を持てるように指導し、主体性を向上させる。

1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答80%以上	①適切な健康診断の実施と事後指導の徹底 ②基本的な生活習慣や感染症予防の保健教育の推進 ③交通安全教室や避難訓練を通した安全指導の充実	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が75.0%と低い。生徒90.4%、保護者85.9%は数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・健康診断や事後措置の実施から健康管理の大切さに気づき、必要な治療は早期に対応できるようにする。 ・ハンカチの携帯を徹底させる。また、給食後の歯みがきの実施率を上げる。 ・安全な登下校や災害時の対処の仕方について指導する。特に、自転車の安全な乗り方の指導を強化する。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒の肯定的回答80%以上	①学習や生活において、計画的・継続的に取り組む習慣の定着を図る ②学習や部活動において、困難なことにも根気強く取り組もうとする態度を育む	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答84.3%は数値指標に達成している。教職員78.1%は数値指標の80%以上に達成していない。 【次年度の方針】 ・学習や生活において計画的・継続的に取り組む習慣を定着させ、根気強く取り組む態度を育成する。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒の肯定的回答80%以上	①英語の授業における会話活動の充実 ②ALTの積極的活用	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員90.6%、生徒70.6%で、教職員の肯定的回答の数値目標は達成したが、生徒の肯定的回答は数値指標を下回る結果となった。 【次年度の方針】 ・生徒の肯定的回答が前年度から低下していることから、取組を見直すとともに、校内英語科教員間での指導法・教材等の共有を一層推進していく。
	A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、の肯定的回答80%以上	①社会科や総合的な学習の時間(宇都宮学)における郷土学習の充実 ②道徳における郷土愛の涵養	【達成状況】 ・児童生徒(74.6→76.8)教職員(66.7→71.9)保護者(62.6→63.1)とも前年度よりも肯定的な回答の割合が上がっているが数値指標は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間の中の年間指導計画の中に「宇都宮学」を位置づけ、確実に授業を実施していく。また、道徳の授業の中で郷土愛についての題材を扱う際には、宇都宮にまつわる資料を探し教材研究を行う。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答80%以上	①ICT機器や図書館を活用した授業の展開促進 ②図書選定委員会を中心とした、計画的な図書の補充	【達成状況】 ・達成状況は、生徒64.5%、教員100%、保護者68.8%となっており、生徒、保護者ともに次年度の達成指標を下回った。 【次年度の方針】 ・学校図書を扱うような教材研究を行う必要がある。
2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒の肯定的回答70%以上	①社会科や理科、技術・家庭科、総合的な学習の時間(宇都宮学)における環境教育の推進 ②生徒会を中心としたSDG's啓発活動の推進	【達成状況】 ・児童生徒74.4%、教職員62.5%で両方とも前年度よりも肯定的な回答の割合が上がっているものの、教職員の数値指標を達成していない。 【次年度の方針】 ・引き続き各教科で環境教育の推進を行うとともに、日常的に行っている活動がSDG'sに繋がっていることを伝えていく。

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①特別支援教育の推進 ②校内支援委員会や職員研修の充実 ③教育相談部会の活性化</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、100%で、昨年度の97%、一昨年度の90.3%を大きく上回り、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ・個に応じた支援策のより一層の強化 ・通常学級における要支援生徒への支援 ・インクルーシブ教育システムの構築</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答80%以上</p>	<p>①アンケートによる実態把握 ②教育相談の充実 ③生活委員によるいじめ撲滅集会の実施と啓発リボンの制作</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員100%、生徒91.1%、でいずれも数値指標を達成している。ただし保護者72.5%は、数値指標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・保護者の理解を得るための情報発信を積極的に行う。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>①自己存在感や自己有用感が感じられる学級経営の工夫 ②特別活動や教育相談等による温かい学級集団づくりや生徒理解 ③SC、MS、小学校、外部機関との連携</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は生徒93.2%、教職員93.8%と昨年度に引き続き90%を超えている。保護者は83.3%で昨年度より1.7%下回った。数値指標は、いずれも達成している。 【次年度の方針】 ・不登校防止の取組が保護者に正しく理解されるように、学年の教職員を中心に、全職員で情報を共有・協力し、生徒・保護者対応に当たる。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答80%以上</p>	<p>①学校行事や体験活動の充実 ②諸検査を基にした事例研究 ③スタンダードダイアリーを活用した生徒理解と支援の充実</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、100%、生徒91.8%、保護者78.6%で、教職員、生徒は数値目標を達成しているが、保護者は、下回っている。 【次年度の方針】 ・個に応じた支援策のより一層の強化 ・スタンダードダイアリーの活用や、要支援生徒への支援</p>
<p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>			
<p>4- (1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>①学力向上プログラムの実践 ②教師同士の授業公開による校内研修の充実 ③宇都宮モデルに基づく授業改善の推進（めあての提示と学習の振り返りの実践） ④英語、数学におけるT・Tや習熟度別学習の充実</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員93.8%、生徒91.5%、保護者77.8%で、生徒、教職員の肯定的回答の数値指標は達成したが、保護者の肯定的回答は数値指標を下回る結果となった。 【次年度の方針】 ・生徒の肯定的回答は9割を超えていることから、今年度の取組は概ね継続とする。また、学校経営の方針（3）を受け、具体的な取組内容については次年度に向け精査し、より効果的な取組を共通実践していけるよう、教職員で共通理解・共通実践を徹底していく。</p>

4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定回答80%以上	①校務分掌の見直しと改善 ②校務に関わる組織体制の整備と強化 ③個々の教員の専門性や能力を生かすための対応	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は100%で、去年度は78.8%、市平均は94.6%で、数値指標も含め、全て上回っている。 【次年度の方針】 ・校務分掌の適材適所。 ・相談しやすい(オフサイトミーティング) 雰囲気づくり。 ・個々の教職員のそれぞれの専門性・得意分野を生かせる協働体制の構築。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定回答80%以上	①業務内容の見直しと改善 ②出勤時間の管理と指導・助言 ③デジタル機器の活用 ④リフレッシュデイ設定による定時退勤の推奨	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は、87.5%で、去年度は75.8%、市平均は82.6%で、数値指標も含め、全て上回っている。 【次年度の方針】 ・リフレッシュデイの主体的な設定のための手立てを模索する。 ・時間予算ワークショップの実施。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答80%以上	①小中一貫教育全体計画の見直し ②乗り入れ授業 ③合同あいさつ運動 ④小6の進学先訪問 ⑤小中一貫各部会	【達成状況】 ・肯定的回答が、生徒78.8%で昨年度より14.2%上昇、教職員93.8%で15.0%上昇した。数値指標80%には生徒1.2%、保護者2.5%届かなかった。 【次年度の方針】 ・効果を考慮しながら活動内容を検討するとともに、周知を進める。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答80%以上	①メール配信・HP活用等による積極的な情報発信による家庭との連携強化 ②地域学校園との情報交換や活動内容の連携と実践	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒72.7%、教職員100%、保護者80.6%、地域住民100%で、生徒が数値指標に達成していない。 【次年度の方針】 ・生徒に対しての情報発信を増やす。また地域協議会への協力体制を保つ。
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員、保護者、地域住民の肯定的回答80%以上	①毎月の安全点検 ②点検後の対策、修繕、報告の充実 ③美化委員による教室環境整備の推進	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員90.6%、保護者85.8%、地域住民100%でいずれも数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・毎月の安全点検の強化と細部までの点検箇所を増やす。 ・点検後の報告、修繕は継続して行う。 ・委員会での机・ロッカー整理の呼びかけの継続。
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答80%以上	①ICT 機器や図書館を積極的に活用した授業の展開促進 ②効果的な活用法に関する職員研修の充実	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員93.8%で、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、教職員が、利点を理解し、教科指導に生かせるように職員研修を充実させ、クロムブックを気軽に使いやす存在となることを目指す。
6-(2) 学校のデジタル化推進			

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B 1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校や地域学校園の「あいさつ運動」の推進</p> <p>②授業や部活動等、学校教育全般を通じた気持ちのよいあいさつの励行</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員96.9%、生徒96.9%、保護者82.4%でいずれも数値指標を達成している。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、教職員が肯定的回答を高められるよう率先して挨拶し、より良い生徒との信頼関係を構築する。</p>
	<p>B 2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①生徒会を中心とした規範意識向上のための取組の充実</p> <p>②道徳の授業の充実</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員90.6%、生徒96.9%、保護者86.1%でいずれも数値指標を達成している。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、生徒がより主体的にきまりやルールを守って生活できるよう心の育成を図る。</p>
	<p>B 3 学校行事やボランティア活動等を通して、地域の人や保護者と生徒が交流する機会がある。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①地域協議会との交流（茶摘み製茶等）</p> <p>②地域未来会議の実施→広報</p> <p>③親子奉仕作業の実施</p> <p>④K L Cの活動→広報</p> <p>⑤くにもと祭りへの参加</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 67.2%、教職員78.1%、保護者 68.3%、地域住民 100%で、地域住民以外数値指標に達成していない。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒が交流する機会時に、主体的に認識し当事者性を持って取り組めるような指導の工夫を凝らす。保護者への情報発信も密に行う。</p>
	<p>B 4 生徒は、家庭学習に進んで取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①各教科の授業の振り返りにて、家庭学習のポイントを教授</p> <p>②家庭学習への取組を記録させる</p> <p>③保護者への周知・啓発</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員59.4%、生徒81.2%、保護者66.0%と、生徒の肯定的回答のみ数値指標を上回る結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 ・家庭学習への取組について、教科間で連携し課題を設定するなど、生徒の取組の内容の一層の充実を図るとともに、生徒の取組を可視化し、生徒の学びに向かう力の育成に努める。</p>
	<p>B 5 児童（生徒）は、自分の体力向上を意識して生活している。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①体育授業時の運動時間の確保</p> <p>②昼休み時の外遊びの推奨</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒81.9%、教員81.3%と数値指標を達成している。しかし、保護者は59.5%と低い。</p> <p>【次年度の方針】 ・体育授業では、生徒が体を動かすことの楽しさを感じるような授業づくりや体を動かすことの大切さを伝えていく。 ・保健体育委員から外遊びの呼びかけを行っていく。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○課題を4つ挙げると、

・第1に、A6の項目で、(児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。)市の平均の肯定的割合が、生徒80.0%、教職員93.2%に対し、本校は、生徒70.6%(去年度86.8%)、教職員90.6%である。

▲生徒と教職員の肯定的割合の差が20%もあり、生徒の肯定的割合が昨年度と比較して約10%下回っている。

・第2に、A8の項目で、(児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。)市の平均の肯定的割合が、生徒84.5%、教職員97.3%、保護者82.5%に対し、本校は、生徒64.5%、教職員100%、保護者68.8%である。

▲生徒・保護者の肯定的割合の平均が66.6%に対し、教職員が100%で、その差が33.4%である。

・第3に、A9の項目で、(児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。)市の平均の肯定的割合が、生徒85.9%、教職員76.4%に対し、本校は、生徒74.4%、教職員62.5%である。

▲市の平均より、生徒・教職員の両方とも肯定的割合が低く、教職員は目標指標(80%)から17.5%下回っている。

・第4に、B4の項目で、(生徒は家庭学習に進んで取り組んでいる。)本校の肯定的割合が、生徒81.2%、教職員59.4%、保護者66.0%である。

▲教職員・保護者の肯定的割合の平均が62.7%に対し、生徒が81.2%で、その差が18.5%ある。

上記5つは、原因を分析し、改善するための計画を具体的に立て、実践しなければならない。

○成果としては、

生徒に関して

第1に、A17(「小中一貫教育・地域学校園」の取組)で、昨年度と比較し、肯定的割合が14.2%上回った。

第2に、B2(生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。)で、昨年度と比較し、肯定的割合が7.8%上回った。

教職員に関して

第3に、A15(学校に関わる職員全体がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。)が、昨年度と比較し、肯定的回答が21.2%上回った。(今年度は100%)

第4に、A16(勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。)が、昨年度と比較し、肯定的回答が11.7%上回った。働き方改革の意識が少しずつ高まっていることが分かる。

上記4つは、今年度の取り組みを継続していく。

7 学校関係者評価

・A8の「生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」の項目において、肯定的回答の割合が、生徒64.5%、保護者68.8%、に対し、教員100%で、その肯定的回答の割合の差が30%以上もあるのはなぜなのか。このことに関して一例だが、自宅では、自分の子どもを見ているとクロームブックは充電している姿しか見たことがないというご意見があった。この対策としては、生徒に対しデジタル機器活用の日常化・習慣化を図ることを目的とした家庭で調査をしてくるような課題を提示し、探究型学習へと掘り下げていく工夫が必要であることを確認した。

・A16「業務改善・働き方改革」の項目において、よい成果がでていようだが、実際はどうか。という質問に、リフレッシュ日の推進、PTAの交通指導の協力強化、コロナ前に行った業務等を同様に戻さない業務の精選化、部活動の活動時間の検討、等が効果を上げる要因であったことを確認した。

・B3「学校行事やボランティア活動を通じて、地域の人や保護者と生徒が交流する機会がある。」の項目において、生徒、教職員、保護者ともに80%を下回っているが、どうなっているのか、という意見があった。これに対しては、国本まつりへの吹奏楽部参加や生徒の美術作品展示、地域の幼稚園への生徒訪問実習、KLC(国本リーダーズクラブ)の活動、地域未来会議の開催、等行っている件、生徒全体への周知ができていないということに原因があるだろうということになった。今後は、全生徒への啓発活動を含め、活動の周知を心がけていくことを確認した。

・A6の「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」の項目において、生徒の肯定的回答が70.6%とあり低いが、その理由を考えると、英語が苦手な子どもが多いことから、日々の教育活動(朝の会・帰りの会等)の中で、英語を使用する活動を繰り返して習慣化を図るとよいのではないかとのご意見をいただいた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・項目A6「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」の項目について、その原因を精査するとともに、個々に対応するような授業内容を検討する。
- ・項目A7「生徒は、宇都宮の良さを知っている。」の項目において、去年度と本年度の肯定的回答の割合を比較すると、生徒・教職員・保護者ともに本年度が上回っている。それでも本年度の3者の平均が、70.6%であり、数値指標80%に約10%足りない。宇都宮学を深める更なる指導法等のアプローチを模索することが求められる。
- ・項目A8「生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」について、生徒・保護者の肯定的割合の平均が66.6%に対し、教職員が100%で、その差が33.4%である。この差33.4%の理由を、具体的に各教科の学習内容も含め、多様な視点を持って追求（分析・改善）する。また、デジタル機器活用の日常化・習慣化を図ることを目的とした家庭で調査をしてくるような課題を提示する等、探究型学習へと掘り下げていく。
- ・項目A9「生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」の肯定的回答が、生徒74.4%、教職員62.5%でどちらも数値指標に達成していない。昨年度と比べれば生徒も教職員も上回っているが、再度、具体的な対策を考慮し、継続した取り組みが必須である。
- ・項目B3「学校行事やボランティア活動を通じて、地域の人や保護者と生徒が交流する機会がある。」の項目において、現状で行っている活動の充実を更に図るとともに、全生徒への意識を高めるため、その周知の機会を多く持つ。